



10月は職業奉仕月間および米山月間です。

まず職業奉仕について、ロータリアンの間でよく「職業奉仕とはいったい何なのか、考えれば考えるほど、わからない」という声を耳にします。これに対する私の考えは、いたってシンプルです。「皆様の職業に日々、誠実に取り組んでいただくこと」。その姿勢さえ崩れなければ、あなたも立派に”職業奉仕”を実践されているのだと思います。

とすれば人間は、易きに流れがちです。油断をすれば気付かぬうちに職業倫理を見失い、不祥事や大事故という落とし穴に陥ってしまいかねません。そんな中で、例えば自身の言動を常に「四つのテスト」に照らしながら省みることで、職業人として社会に貢献していただく。それこそが、ロータリアンとしての真の強さなのではないでしょうか。

本年度の地区テーマは「ロータリークラブについてもう一度考えてみませんか」です。100年以上の歴史と伝統を誇るロータリークラブですが、今こそもう一度、原点に立ち返って見つめ直していただきたい。そんな願いを込めています。

そしてこのテーマは、皆様方の職業にもそのまま当てはまるのではないかと考えています。長年その職に浸り続けている中で、どこかしらズレや歪みが生じてきてはいませんか。「あなたの職業についても、もう一度考えてみませんか」。

創業時に抱いた理想や、現在の職に就かれた当初の高い志を思い起こしていただくことで、あなたの職業奉仕の「新たな一歩」が始まるのではないのでしょうか。

次に米山記念奨学事業についてですが、この事業の尊さと意義を、地区内の全ロータリアンによりよくおわかりいただくことが、私の願いです。「また寄付か」という不満が、米山に対する理解不足に起因していることは明らかです。当然のことながら人間は、理解のできないモノやサービスに対しては、お金は払いたくないものです。

そうした意味からもぜひ今月は、例会の卓話などを通じて、会員の皆様の理解を深めていただく機会にしてください。第2660地区でも地区委員会の皆様や各クラブの米山担当者を中心に、この事業に対して多大なるご尽力をいただいております。そうした皆さんの努力を受けて、当地区の全会員が米山に対して理解を示していただき、その事業に参加、協力できる喜びを共有していただける。そしてそんな状況が次の世代にも確実に受け継がれていく。こうした体制が確立することを期待しています。

わが国独自のロータリー活動、そしてまた国内最大規模の奨学金制度として、私たちロータリアンが胸をはって内外に誇ることのできる米山ですが近年、様々な課題を抱えていることも事実です。会員数減少にともなう奨学金の減少や奨学生の選出方法、奨学期間終了後の問題などが指摘されていますが、米山の良き伝統は守りつつ、変えるべきところは変えていく必要があることは確かです。そうした意味からも今月は、米山についてももう一度、考えてみませんか。